

## 方言で繋がる

ニコラ フォルツナト

「アカン！」 この言葉を聞いたことがありますか。東京に暮らしている外国人はあまり聞いたことがないと思います。どういう意味だと思いますか。私は、最初聞いたときは、「赤ちゃん」と近い発音なので、乳児という意味だと思いました。でも本当は、「あかん」の意味は「だめ」です。「あかん」は関西の方言、関西弁です。

初めて日本に足を踏み入れたのは、関西の大阪でした。大阪大学の1年の短期留学プログラムのメンバーに選ばれ、自分の夢が叶ったと思いました。ですが、大阪に着いたときに、日本語のレベルに関して、自信を少しなくしてしまいました。「あかん」や「せやな〜」、「ほんまや」などの聞いたこともない言葉が耳に飛び込んできたからです。「これは本当に日本語か？」と疑問に思ったほどでした。当時の私は、フランスで勉強した日本語とは違う「方言」の存在を知りませんでした。そこで方言、関西弁に興味を持ちました。

大阪大学に通っていたとき、外国人ばかりのクラスの同級生たちは、みな同じことを言っていました。それは「日本人と日本語で喋る機会がない」ということです。わたしは対策方法を考えて、一人でどこかに行き、周りの人と喋ることにしました。海外で他人と関わりたいなら、チャレンジという概念が大事だと思います。もちろん失敗してもいいと思います。失敗は成功のもと。私は大阪弁の単語を使って、話しかけることにしました。

日本人と繋がるために、同じところに何度も行って、常連さんになって、その場のコミュニティーに入りました。最初はレストランでした。何回も行ったりするとお金がかかるのですが、価値があります。素晴らしい経験になりました。語彙が増えたり、友達ができたり、店長とダーツに行ったりすることにもなりました。

レストランの次に、一人でバーに行ってみました。フランスと対照的に、日本では一人でバーに行ってもおかしくないことに、すぐに気付きました。あちこちの人が一つの所に集まって家族のような深い関係が作れます。日本の素敵なお店の一つはそれです。楽しいときを過ごしながら、関西弁を使えば使うほど、友達ともっと深い関係が作れました。バーでこんな親密な関係ができるなんて予想外でした。もし、フランスで一人でバーに行ったら、「あの人が怖くない？」「可哀想」とか思われます。

大阪だけではなく、日本のあちこちに行ってみました。新しい町に着いたら、すぐその町の人たちに「ここに方言がありますか？」と聞きました。旅行で方言を使ってみることは、ふれあいの一つの方法でした。東北に着いたばかりの外国の人の姿がいきなり「おらいぐべー」などと言うと、周りの人と一緒に笑って、近くなりました。しかし、気持ちを和ませるかわりに、もしかしたら逆に白けて、認められないかもしれない。「あの人は私たちの話し方を真似しているだけ、本物じゃない！」などと思っているかもしれません。

でも、本当は受け入れて欲しいだけです。そして今、私は2回目の日本留学をしています。しかし、ここは方言のない東京です。しかも、今回の目的は日本で仕事を探すためです。狭いコミュニティーに入るためには、方言がいわゆるいい道具だと思いますが、もっと広い日本の社会に入るためにはどうしたらいいのでしょうか。方言のない東京の人とどうやって絆を深めたらいいのでしょうか。方言は、ただの言葉ではありません。文化です。日本の文化を頭や体で理解しながら、東京という方言がない場所、日本という広い社会に、受け入れてもらえる新しい方言を、私は今、探しています。